



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Yes, we can change 「私たちは変えられる」
“Action” 「アクション」
「為せば、成る」 No challenge No fruits
「未来はそれに備える人のものである」
「入りたいな」と思われる楽しい例会に

2018年9月号
NO 504

知恵は真珠にまさり どのような財宝も比べることはできない。

箴言 8章11節

強調月間 「ユース」 大野貞次

私たちのクラブにはユースの年代にあてはまる若い会員はいないため、その活動を支援する体制はあまりできていないが、ワイズ活動の中にユースの活動を見出すことができます。YVRF (9月) やオープンフォーラム Y (5月) が開催されます。

9月7～9日に行われたボランティアリーダーズフォーラムは、各地区のYMCAでボランティアを始めて経験の浅い人たち、また障がいがある子どもたちと、どう接するか等を研修の場としています。クラブとしてその活動を応援することができますので意識してみましよう。できれば若い会員を集める努力も忘れずに。

今月例会の卓話はNPO法人アクセプションズ理事長の古市理代(ふるいちみちよ)さん。このNPOはダウン症の子どもを持つ親たち

が立ち上げた団体です。

その団体が行うプログラムに「バディウォーク」というイベントがあります。皆様はご存知ですか。これはダウン症のある人たちと一緒に歩く世界的なチャリティーウォーキングで米国が発祥です。日本では2012年に東京で初めて行われたそうです。

去年は、6回目にあたり、新宿・都庁周辺を大勢のボランティアと一緒に総勢1,500人でパレードし、ダウン症がある人の魅力を知って欲しいというおmoiを発信しました。

古市さんはボランティアの方々と常に接しておられます。今回の卓話は「ボランティアに求められているものは何か」と題しお話をさせていただくとともに、理解を深め、私たちの活動に生かしていきたいと思ひます。

世田谷・等々力溪谷 WHOウォーキングのご案内



市街地に突如現れる等々力溪谷

等々力溪谷は、谷沢川が国分寺崖線を削って出来た23区唯一の溪谷です。冷気と静寂があります。帆立て貝形古墳と五島美術館と合わせて歩きます。

期 日：9月22日(第4土曜日)

集 合：東急大井町線・等々力駅

改札 9:45

解 散：同・上野毛駅 14:30

参加費：300円、交通費は個人負担(初参加の方は別に名札代として200円)

入館料は個人負担

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 高嶋美知子
書 記 石井 元子
会 計 河原崎和美
担当主事 木川 拓

8月の記録			ニコニコ	16,000円	
在籍者数	15人	メネット	1人	クラブファンド	0円
(内功労会員)	1人	コメント	0人	ファンド残高	151,534円
出席者数	9人	ビジター	1人	ホテ校ファンド	6,000円
メーカー	4人	ゲスト	0人	ホテ校残高	37,654円
出席率	93%	出席者合計	11人	WHO参加者	-
前月修正	-				

9月例会のご案内

今月の強調テーマ： ユース

今月の卓話は、今私たちが考えさせられる問題でもあるボランティア活動について、特に障がい者と向き合い助け合う心をどのように持つか、また生かすか、お話を伺いながら考えたいと思います。皆様をお誘いください。

日時：9月20日(木) 18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並（4階集会室）

（杉並区天沼 3-19-16 TEL03-5335-7330）

会費：1,500円（ゲスト・ビジター・メネット）

担当：C班（大野、神崎、篠原、村野、山田）

HAPPY BIRTHDAY

5日 庄野 久男 15日 村野 繁
23日 本川 悦子 25日 高嶋 君弘

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

挨拶・ゲスト&ビジター紹介

会食

卓話 「ボランティアに求められているものは何」

NPO法人アクセプションズ理事長

古市理代さん

諸報告

YMCA 報告

ハッピーバースデー

ニコニコ

閉会点鐘

受付 大野 貞次

司会 村野 絢子

会長 本川 悦子

一同

山田利三郎

本川 会長

会食

本川 会長

担当主事・木川 拓

本川 会長

一同

本川 会長

— 8月第2例会(事務会) —

日時：8月23日(木)

19:00~21:00

会場：ウエルファーム杉並 4F

出席者：大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、吉田、石井

<報告事項>

- ①8月のデータを確認した。
- ②前年度決算報告は9月事務会で行う。
- ③竹内隆さんの葬儀に、当クラブから8人が参列した。
- ④東日本区次々期理事の選出で、当クラブは板村哲也さん(東京武蔵野多摩)に投票した。
- ⑤西日本区豪雨被災地救援募金として、8月バーベキュー例会のニコニコ献金、寄付金、その他、計30,000円を日本区へ送金した。

<協議事項>

▲9月第2例会

日時：9月27日(木)

会場：ウエルファーム杉並 4F

▲10月例会

日時：10月22日(木)

18:45~21:00

会場：ウエルファーム杉並 4F

卓話：井上康子(みちこ)さん

「ドイツ人との上手な付き合い方」

- ①吉田さんから、今年度の卓話に「上手な付き合い方」シリーズを加えたいとの提案があり、了承した。
- ②アジア地域大会のピンバッジ(1個500円)を個人負担で、当クラブの人数分、申し込む。
- ③アジア地域大会に関する、当クラブの窓口を、高嶋さんにする。
- ④当クラブの細則に定められた、会員及びメネットの入院見舞金(5,000円)を廃止する。

(書記・石井元子)

9月以降の行事

▲9月23日(日・祝) 10:00

東京YMCAチャリティーラン
場所：木場公園

ボランティアでコース整備をしながら、応援をしましょう。

▲9月29日(土)~30日(日)

富士五湖クラブ・東京サンライズクラブの合同例会開催
場所：富士山五合目佐藤小屋

▲10月20日(土)あずさ部会

ホスト・甲府21クラブ

卓話者紹介

古市 理代(ふるいち・みちよ)さん

NPO法人アクセプションズ理事長

文京区にお住まいでご主人とご子息2人の4人家族。

ご子息にダウン症があることから2012年にNPO法人アクセプションズの活動に加わり現在理事長を務められイベントの開催や勉強会を通して、ダウン症の啓発や多様性のある社会の実現に向けて、活動をされています。

WHO情報が簡単に得られます

今月のWHOウォーキングのコースの予定と、前月の報告が、パソコンやスマホで、写真入りで見ることが出来ます。

<http://tokyo.ymca.or.jp/community/2018/08/20180827-2.html>

QRコード⇒
(9月・等々力溪谷他)



原村合同例会訪問

7月28日(土)正午、第26回原村合同例会(東京武蔵野多摩クラブ・松本クラブ)が、長野県諏訪郡原村にあるこひつじ幼稚園で開催されました。

私は東京サンライズの菰渕光彦さんと7時半に荻窪駅で待ち合わせスタート。当日は台風が接近している中、心配しながら原村に向かいました。雨もさほど降らず諏訪南を出たところで東京武蔵野多摩クラブの皆さんと会い、こひつじ幼稚園に向かいました。

参加クラブは東京武蔵野多摩・松本・甲府・甲府21・東京サンライズ・東京西の6クラブに、こひつじ幼稚園の先生方、合わせて総勢29人となりました。

東京武蔵野多摩・山口直樹会長の開会点鐘で始まり、あずさ部・廣瀬静男部長の公式訪問の挨拶があり、会食はこひつじ幼稚園の先生方が散らし寿司、そのほか沢山のご馳走を作っていただき、美味しくいただきました。この食事が楽しみで今年も参加しました。感謝です。

そして卓話は甲府21クラブの会員で昨年度入会された米長晴信さんが「情報発信の技術・心得」と題しお話をなさいました。

これは米長さんがフジテレビ報道局に勤務されていたとき、海外特派員としてイラク・パレスチナに行かれた時の体験を通して真実をいかに的確に伝えるか、そのための準備をいかに素早く進めるか、等々のお話を伺いました。当クラブでもお話をしていただけだと思います。

楽しい時を過ごし午後3時半に終了し、台風が来ているので早めに帰路につきました。諏訪を出るときは薄日も射していましたが、東京に着くころには雨・風とも強くなりましたが無事帰京しました。(大野貞次)



高嶋宅の屋上でバーベキュー納涼例会

ー 8月納涼例会報告ー

ここ数年、夏の納涼例会、冬のクリスマス例会は通常の例会場から離れ、しかるべきレストランを借り切って行ってきたが、今年の8月の納涼例会は高嶋美知子さんの提供により新築なった高嶋邸のベランダでBBQパーティをやるんじゃないかということになり全員賛成でその通り行われた。

会場整備は高嶋さん、BBQの食材は8月担当メンバーと高嶋さんが担当して例会開会2時間前から準備した。開会30分前から火おこしを始めたが、これが一筋縄で行かず担当者は木炭に火が起こるまでに火付けジェル、古新聞紙、果ては割箸を燃やすなど、大いに苦労した。苦労した甲斐あって例会第2部BBQパーティ開始までには順調に始められる状態にすることができた。

例会第1部は若干定刻を過ぎしてから応接室で始められた。開会点鐘の前に、8月例会の19日前の7月27日に亡くなられた竹内隆さんを悼んで黙祷が捧げられた。会場には竹内さんの笑顔の写真が飾られお花と果物が供えられた。

開会点鐘の後、ワイズソング、聖書朗読、祈り、副会長あいさつ(会長は当日都合により欠席)、諸報告の後、出席者全員による

竹内さんの思い出、哀悼の言葉が述べられ(欠席者からは予め寄せられた追悼文が読み上げられた)、20分程であったが大変良い雰囲気の中で偲ぶ時間が持たれた。

さて、第2部BBQパーティが薄暗くなったベランダでスタート。心配された雨模様も遠ざかり沢山の肉・野菜等々が燃え盛る炭火の上で焼き上がり、野趣たっぷりのご馳走に舌鼓みを打ちながら談笑に花が咲いた。天空は既に真っ暗となり電灯の下で満腹の腹に仕上げのスイカを食べて第2部は無事に終了。

一斉に後片付け開始。手際よく後片付けも短時間で終了し、応接室にて皆で一服し、概ね定刻にお開きとなった。その時、皆の足の裏が真っ黒になっていたのはご愛嬌であった。これは、火起こしの時に「すす」となった焼け新聞紙が「うちわ」で煽られて床にばらまかれ、掃き清められたものの残った「すす」の上をはだして歩き回ったためであった。

この日のニコニコは、当日の会費の残金と併せて西日本豪雨災害支援金として東日本区に送金することとした。(神谷幸男)

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、高嶋、鳥越、村野、山田、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>村野繁(東京世田谷)

参加者なんと3,000人 韓国流の第73回国際大会

8月9日から12日まで第73回国際大会が韓国麗水(Yeosu)で開かれ参加した。海洋博の近代的な広い施設を使っただけの大会は参加者3,000人のうち2,600人の韓国の方々と、北欧、アフリカ、アメリカ、インド等の参加者は少なく、東西日本合わせて約90人。名簿が無く、正式発表無く、国際大会の常連にもお会い出来なく残念だった。

開会のフラッグセレモニーで始まり、韓国人の国際会長が紹介する大統領のメッセージ、知事・市長の挨拶のスピーチは長く、プログラムは遅れに遅れた。普通ディナーにはテーブル番号が指示され、異なる国の人がバランスよく配置され、テーブルごとに賑やかな交流が生まれ、それが楽しみなのだが、残念ながら韓国流はそうではなかった。

ところが、食後のアトラクションはオーケストラ、オペラ歌手の素晴らしい歌声が響き渡り、太鼓に、ダンスと次々にパワフルな演技が繰り広げられた。韓国式のおもてなしは続き、海をバックに、噴水、水のスクリーンに映像、海を囲むホテルにも映像、海に浮かぶ観光船も照明が華やかだった。趣の異なる国際大会であった。

藤井寛敏さんが、ボランティア賞を受賞され、皆の祝福を受けられた。(村野絢子)



村野繁さんが大会参加者の中での会員歴50年以上の方として表彰された
(東京多摩みなみ・田中博之さん撮影)

21回目のBBQ納涼例会

横浜とつかクラブと鎌倉クラブのBBQ納涼例会が、8月21日、横浜とつかクラブ、加藤利榮さん宅の庭で行われました。両クラブのメンバー、メネットにゲストを加えて、参加者は38人。東日本区発足前1994年に始まったそうです。クラブ行事ですが、湘南沖繩部の準行事ともいえそうです。

次々に料理が運ばれ、それぞれ卓を囲み、談笑しました。

岡進さんの入会式も明るい話題でした。父上は、仙台クラブの久雄さんです。(吉田明弘)

東京八王子クラブ7月例会 ストレートな卓話に好感

「定点観測」というか、東京八王子クラブの7月例会にはなるべく出席させてもらっています。7日、北野センターで行われた例会に出ました。

卓話は、プロバスケットチーム・東京八王子ビートレインの取締役・沢登敏也さん。高校時代県選抜チームでチームメイトだった現社長と5年前に八王子にプロバスケットチームをつくろうと一念発起。今年、3部制のプロリーグの2部に昇格しました。

今までプロと名の付くスポーツチームがなかった57万都市に市民に愛されるチームを結成して、地域を活性化させようという目標がわかりやすい。そのためにはあらゆる努力を惜しまず、地域

に理解が広がり、協力を得られてきています。子どもたちが身近にあこがれの選手に接しられるように、市内に住まない選手とは契約しないそうです。2人とも30歳代。やはり、何かをやるときは、やりたいことが明確であれば、協力が得られると感じました。事実、卓話が終わるとどうすれば、後援会員になれるのか、チケットはどこで買えるのかの質問が出ました。(吉田明弘)

YMCA Today

○東京YMCA国際ホテル専門学校は9月3日から2学期がスタートしました。120人を超える1年生はこれから2月末までの6ヶ月間、ホテル実習を行います。ホテルで働くための知識や技術を身につけるだけでなく、社会人としての基礎を築く大切な期間となります。厳しさを乗り越え、ホテルマンとして、そして人として、一回り大きくなって戻ってくることに期待しています。

○西日本豪雨災害被災者支援のため、全国YMCAが協力し、2,500万円の目標額を掲げ、募金活動を展開しています。広島YMCAが主管となり、8~9月に渡り、多くのボランティアを受け入れ、家屋の泥だしなどを行いました。夏休み期間には被災した小学生を対象としてリフレッシュキャンプも実施。引き続き、中長期的な視野に立ち、支援活動を継続していきます。

○8月25日、会員部主催による恒例の「夏まつり」が東陽町センターにて開催。会員やワイズメン、学生、メンバー、スタッフが模擬店やこどもコーナー、被災地物品販売など、計14ブースを担当。ジャズバンド演奏や抽選会も催され、楽しく、交流が図られました。益金は会員活動に用いられます。

(担当主事 木川 拓)

☆☆ インタビュー ☆☆ 長谷川あや子さんに聴く

* * *

長谷川あや子さん（東京八王子）
は、今年度区会計です。



—長谷川さんのパートナー、長谷川信さん（故人）のお名前は、私が東京目黒クラブに入会した年に、10周年を迎えた東京山手クラブの記念誌の中にあつたことを覚えています。後に東京山手クラブの看板プログラムとなった家族キャンプの第1回の委員長でした。

「家族キャンプのことは繰り返し聞いていました。主人のキャンプネームはフランケン。顔はいかつかいけれど愛情の溢れた人でした。奈良信さん（トラ）、すでに亡くなられた福尾昇一さん（ハッピー）、田辺正忠さん（ノラクロ）、鈴木節さん（ベル）のこともよく話題にのぼりました。私は、その頃の事を知らないのですが、本当に楽しかったようです」

—結婚後は、メネットとして活動に参加されていましたか。

「主人の仕事が忙しくなつて山手クラブは退会しましたが、その後、1991年、東京まちだクラブのチャーターを機に奈良昭彦さん（当時、東京山手）からお誘いがあり、改めてワイズに入会いたしました。私も例会、バザーなどメネットとして何回か出席いたしました」

—あや子さん自身の入会は、東京八王子クラブということですね。

「1997年のクリスマス例会でチャーター3年目の東京八王子クラブに入会しました」

—どんなきっかけでした。

「早稲田教会で奈良昭彦さんに再会し、東京八王子クラブの例会に誘われました。主人が亡くなって、まだ悲しみの中にいましたが、1997年10月に山中湖で行われた東京武蔵野・東京サンライズ・東京八王子クラブの合同例会に参加させて頂き、それがとても楽しく、心が癒され、メネットの皆さんにも親切にして頂いてワイズの入会を決心しました。今でもありありと思い出します」

—何に魅かれましたか。

「例会に出席し、ワイズの方たちの優しさ、温かさは感じていましたが、私自身がメンバーになるにあたっては、自分に何が出来るだろうか、私で役に立つことがあるだろうかと真剣に考え、その上で何かひとつでもお役に立ちたいと思い入会を決めたのです」

—ずっと、東京・小石川で育ちましたか。

「都電の早稲田駅から3分のところ。当時は、上野でも日本橋でもどこへ行くにも都電で行ったものです」

—どんな子どもでしたか。

「小学生の頃はひたすら遊んでいました。缶けり、縄跳び、台とび、塀の上から飛び降りるなど乱暴な遊びもしましたが、私がお転婆だったのではなく、まわりの子どもは皆そうだったのです。でも本を読むのも大好きでした」

—YMCAとの接点は。

「ワイズに入会后、東京YMCA会員になりましたが、会員部の運営委員になってから積極的に関わるようになりました」

—長谷川さんは、クラブ会長を皮切りに、部や区の役員を歴任しています。組織の中で、男性と女性の仕事の進め方の違いを感じることはありませんか。

「雑誌、婦人之友の読者の集まりである（公財）全国友の会に入会して33年です。そこで報告・相談・連絡（ホウレンソウ）の大

切さを学び、講習会などの準備の仕方、仕事の進め方を教えられ、協力の楽しさを知りました。友の会での経験がワイズの中で役立っています。ワイズは懇親会が多いなあとは感じますが…」

—クラブでも区役員会でも躊躇なく発言されますね。

「これだけは伝えたいという思いがいっぱいになるのです。」

—今年度は、区の会計ですね。財政問題が課題ですね。

「クラブの会費は月に4,000～5,000円のところが多いのでしょうか。区費や部費、各種献金、クラブ独自の活動、運営を考えると、メンバー数が非常に問題になってきます。15人以下のクラブは本当に大変だと思います。健全な運営からいっても会員増強は切実な問題ですね。以前、インタビューでお読みした前原末子さん（御殿場）が入会后、クラブ会計をやった時に、このようなクラブは会員増強しなければもたない、と感じたそうですが、私も同感です。会費を払ってでもワイズに入会したい、ボランティアをしたいと思えるような、熱のあるワイズにしなければなりませんね」

—仕事など何かをやるときの座右の銘みたいなものは。

「力が出るもの、出せるもの。自分を鼓舞するときに」

—ワイズでの一番の思い出は。

「どの年も思い出がありますが、2009-10年度に区書記をさせて頂いた1年でしょうか。本当によい勉強をさせて頂きました。原俊彦区理事のもと、理事キャビネットたち、いい仲間と協力して歩むことが出来ました。青春の1ページのような思い出です」

—ワイズの良さは、どこにあると。

「心が通い合う仲間が出来る事が一番です。一緒に力を出した後爽快感がまた次のエネルギーを生んでくれると思います」

—ありがとうございました。

（吉田明弘）

花園から「新たな花園」へ

90歳を超えて、人生の終末を思うことが多くなった。今私は、善福寺の家の庭の、妻の祐子が手塩にかけて育てた色とりどりの美しい花々に囲まれて静かに幸福に暮らしている。恐らく終末後の新しい世界も美しい花に囲まれた「花園」の中にあるものと確信している。現在の「花園」から「新たな花園」への移行が終末と考えるようになった。

既定方針通りに、毎日の散歩、朝夕の筋トレ・ストレッチ体操を励行の上、歌のレッスン、パソコンによるエッセイなどで人生の終末に備える。百十歳の健康長寿を願って…

平成30年1月15日 91歳 竹内 隆 (ご愛用のパソコンから)

東京西クラブの 地域奉仕活動、『これから』

1976年に誕生した東京西クラブは、独自の地域奉仕事業は行わず、3年前に開設していた東京YMCA 杉並センターが生み出す新規プログラムに協力・支援する形で行ってきました。

親子早朝サイクリング、婦人フィットネスによって種が播かれた杉並センターは、ユニークな“障がい児”対象プログラム開発をしていました。

1972年、常藤恒良主任主事が山中湖で障がい児と健常児の統合キャンプを始めました。それまで障がい児だけのキャンプは行っていました。統合キャンプは新しい発想でした。懸念もありましたが、80人が参加し、クラブも応援しました。翌年にはTVでも取り上げられ、青年会議所の後援も得ました。

1973年、小学生グループが公園清掃、一人暮らしの老人訪問、高校生の老人施設の窓ガラス拭きを行いました。

1979年から少年事業リーダー会が、「ボランティアリーダーズ・ビューロー」を開設し、この年には、46件の派遣要請があり、心身障がい者(児)介護、ゲーム指導を主に、大学生、高校生、ボランティアが延べ85人応援しました。

1977年、大村洋永主事と高校生グループリーダーとの話し合いから生まれた「中高生のための

ボランティアスクール」が始まりました。5月の連休中でしたが、70人近い中高生が参加。新聞社、TV局、JC、日本児童ペンクラブとともにクラブも後援しました。翌年第2回が開かれ、33校から96人が参加し、奉仕の心、車椅子の扱い、目の不自由な人のエスコートなどを学びました。

彼らには絶好な実践の機会が与えられました。身障者へのドライブプレゼントでした。これは立正佼成会の信者を中心とした個人タクシーの団体「東京親切タクシー協会」が、車と運転を提供するから身障者の方に日帰りドライブを楽しんでもらいたいと、杉並障がい児父母の会に申し入れ、たまたま父母の会の世話人に杉並YMCAの維持会員の落合テルさんがいたことから、企画立案とリーダーシップの提供を杉並YMCAに求められました。綿密な打ち合わせを重ね最終参加者は、身障児31人、家族46人、介護ボランティア、スタッフ96人でした。

当日、立正佼成会駐車場には、タクシーが50台。夢の島に出発。しかし、あいにくの降雨。中野の立正佼成会大聖堂にとんぼ返り。室内大オリンピック大会となりました。臨機応変に対応するYMCAの面目躍如でした。

このプレゼントは、その後、何年か続きました。ワイズメンは、テントをトラックで運ぶとか、荷物番とか、運転手さんの話し相

手、資金援助など裏方でした。

その後、東京YMCA、特に小ブランチが英語教育事業に傾斜する中、YMCAの提案力、推進力が得られなくなり、クラブは、黒子の役割の場を失いました。

杉並YMCAと合同でクリスマス祝会に障がい児を招くなどの活動をしていました。その中で、小規模ながら、バザーの収益金やWHOウォーキングの収支差額を、山手センターで行っているLD(学習障がい)児のスキーキャンプの経費補助のために贈って来ました。

幾星霜。この間、クラブもYMCAも変わりましたが、当時のプログラムは色あせず、今でも通用すると思います。クラブの体力不足は否めませんが、自分で限界を決めず、出来ることを創案したいと思います。

8月例会の卓話の「アクセプションズ」が主催する「チャリティーウォーク」にクラブ事業であるWHOウォーキングが部分参加出来ないか考えています。

(吉田明弘)

編集後記

早いですね。竹内隆先生が天に召されて2か月になろうとしています。寂しさを感じます。

今月も私の手配ミスで遅れが出ましたが、皆様の協力により発行することができますことに感謝いたします。(T・O)